

ふるさとへぐり再発見

－ 幻の城「高安城」(1) －

22



平群町の南西部から三郷町、八尾市、柏原市にかけての山間部に、古代の山城「高安城」が存在したと考えられています。

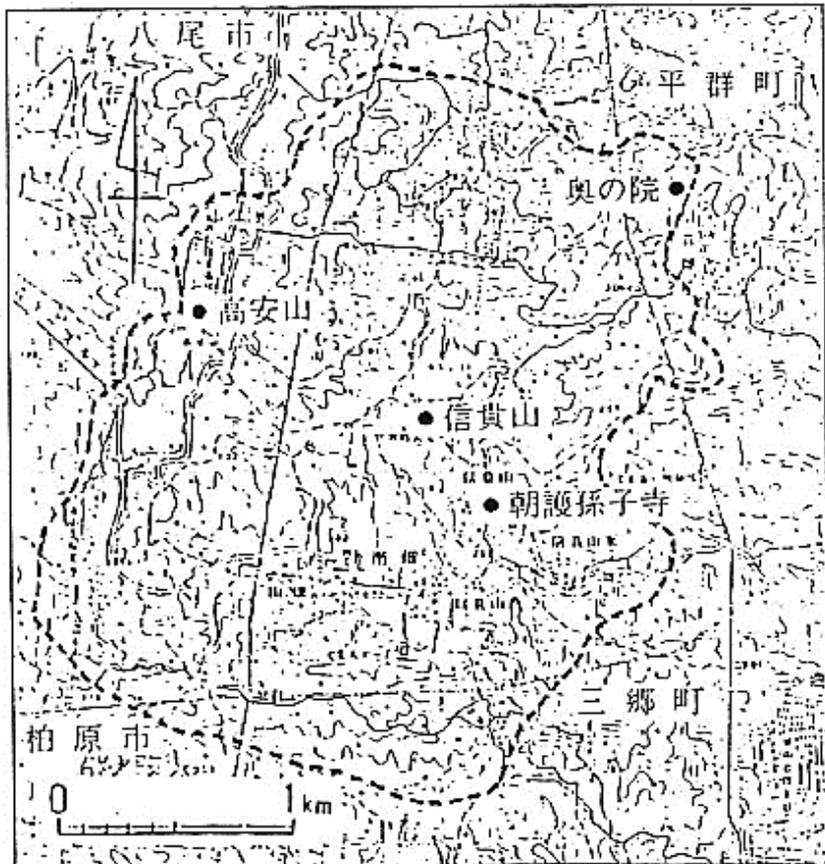
この城は日本が朝鮮半島で唐、新羅軍に大敗し、日本に攻め込まれる危険性が出てきたため、本土決戦に向けての防衛線として築城されたと考えられ、当時の正史「日本書紀」に度々記載されています。

天智6年(667)11月に倭国高安城を築くとあるのが初見で、^{じんしん}壬申の乱の舞台にもなり、天武・持統天皇も行幸しています。

そのわりには城塞としての遺構がはっきりせず、範囲すら推定の域を出ない状況です。

ところが同時期に築城された太宰府に近い大野城では立派な石垣や水門、多くの倉庫群が存在し、古代山城としての偉容を誇っています。

このため、高安城は幻の城とさえいわれ、研究者によって推定場所、範囲にずれがみられました。



高安城の推定範囲(破線内)

中心部分は高安山と信貴山の雄嶽付近と考えられますが、この場所は中世後半に信貴山城、高安山城が築城され、大きな改変を受けており、主要遺構の不明な要因にもなっています。

一般的には地形から図のように、久安寺北垣内、信貴畑丸尾から芝、山角を通る線が北、東の範囲と考えられており、東西 2.5km、南北 3 km の広大な城域となります。